



Tanabe East Rotary Club in 2016-17

2016-17年度RI会長: ジョン F ジャーム
 第2640地区ガバナー: 福井 隆一郎
 田辺東ロータリークラブ
 創立: 昭和49年5月15日

会長: 山本 亘
 幹事: 谷本 司
 会報: 岡本 博



人類に
奉仕する
ロータリー

例会場/事務所: 田辺市下屋敷町81-10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
<http://tanabe-east-rc.com/>
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会: 毎週水曜日 12:30~
 ビジターフィー ¥2,000

○会長報告 会長 山本 亘

■本日のお客様は、松上京子様をお迎えしております。後ほど、ご講演宜しくお願い致します。



■本日の例会終了後、定例理事会を開催致します。理事・役員の方はお残りください。

■本日は、和づち（湯川和洋君）の鰻弁当となっております。

○幹事報告 幹事 谷本 司



■例会日時変更

◎新宮RC

2月 8日(水) → 休会
 3月29日(水) → 休会

◎那智勝浦RC

2月23日(木) → 2月19日(日) 8:00~
 場所: 南の国の雪まつり会場
 <ポリオ・プラス募金活動>
 3月 2日(木) → 2月25日(土) 17:30~
 場所: 「魚菜」熊野市有馬町
 <家族親睦会>

■回覧

- ◎「シーカ142号」
- ◎ロータリーの友事務所より
 「2016-2017年度版ロータリー手帳の申込表」を今年度と同じサイズで製作しています。申し込みをまとめて注文します。支払いはクラブ経費です。
- ◎ガバナー事務所より
 「リソースのご案内 平和と紛争予防/紛争解決月間」
 「日本人親善朝食会についてのご案内」「登録申込用紙」
 「2017-19年度 近畿水教育研究所奨学金の申請書のご案内」
 「米山記念奨学生の世話クラブとカウンセラーのお引き受けについてのお願い」
 「世話クラブ回答書」

■連絡

- ◎「識字率向上運動協賛のお願い」の募金箱と、書き損じ葉書（年賀葉書の書損じ等）の受付箱をSAA・親睦の机に置いています。ご協力宜しくお願い致します。

○本日の唱歌

「スキー」

唱歌委員 湯川 和洋 君
 作 詞 : 時雨 音羽
 作 曲 : 平井 康三郎



○ゲスト・ビジター

松上 京子様



著書



○出席報告

会員数 50名 義務免除 2名 本日の欠席者 8名
 本日出席率 83.33% 1月25日の修正出席率 89.13%
 1月の平均出席率 88.69%

〇にここに報告

(敬称略)

◇松上京子様をお迎えて。

愛須勝章・後藤信博・片井貢・木村壽一・畔田実・北村圭司・丸山勇人・丸山博之・森本修至・野村憲司・沖史郎・佐田一三・竹村英一・谷本司・上原俊宏・山本亘・吉本正美

◇松上京子ちゃん、田辺東RCにようこそいらっしゃいました。YFUでは大変お世話になりました。YFU(公益財団法人YFU日本国際交流財団)

坂本正人



◇畔田君より前田君より野村君より、僕の(弁当の)ウナギのほうが大きい。橋本隆



◇何もめでたいことがない。仕事が増えただけ。

武田静也



◇\$100(紙幣で)寄付したらおつりが来たので入れます。

橋博



◇父の葬儀には大変お世話になりました。2月末日をもちまして中川石油店を閉店いたします。54年余りにわたるご愛顧に心から感謝申し上げます。

中川文恵



◇奥様誕生日

玉置和男



◇結婚記念日

☆何も書くことがありません。

早稲田清司



☆あと30年はよろしくね!!
愛してるじゃ!!

本田耕二



◇お花いただきます。

泉房次朗



松上京子



～出会いは人を育てる～

「美味しいぼんかんが届きました。ありがとう」
東京に住む友人からメールがきました。ひとまわり年上の彼女と出会ったのは36年前の京都。学生寮が夏休みで閉鎖中の私と、美術館の夏期研修で訪れていた彼女とは、祇園近くの小さな宿に泊っていました。廊下を囲むように襖で仕切られた部屋がいくつかある古いお茶屋さんのような造りの宿でした。

彼女が

「ねえ、洗顔石鹸貸してくださらない?」そう声をかけてきたのがきっかけでした。

意気投合した私たちは、夜遅くまでおしゃべりやトランプに興じ、京都通の彼女からはお寺や庭園のことを教えてもらいました。それから今までの長いお付き合いの中、伝統美術、お能、絵本、そしてご自身の仕事である七宝焼きの絵付けと書道の話などを聞かせてもらい、おかげで私の世界は広がりました。

もうひとりの女性との出会いを紹介しましょう。
9年前、オーストリアから突然電話をしてきた翻訳家の京子さん(同じ名前です)が、翻訳中の本にカナダのユーコン川を描写する部分があるので内容をチェックして欲しいと依頼してきました。彼女に会ったのはそのひと月ほど前、奈良の小さなレストランでの音楽コンサートでした。私は友人と、彼女はオーストリア人の旦那さまとともに参加し、その場では言葉も交わさなかったのに、「前を通り過ぎた時に京子さん(私)がにっこり笑ってくれたので。この人に頼みたいと思った」という理由で電話をかけてきたのです。驚きましたが、それ以来、同年代の私たちは同じ母親として子どものことを話したり、仕事や人生のことを話したり、帰国のタイミングで何度も会って、いい関係を保ってきました。

私の息子がプログラミングに興味を持っていると話すと「うちの夫は大学でプログラミングが専門なの。グーグルや東大と共同でソフトの開発をしているのよ。何でも聞いてね」とまたまた驚くようなことを言うのです。

人との出会いはおもしろいもの。出会って関係を築いていくのは素晴らしいことです。損得勘定や表面的な付き合いでなく、相手を思いやるのが大切で、ときには

四つのテスト: 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

生き方を変えるような出会いもあるものだと思います。

振り返ると私は出会いに恵まれてきました。いま、さまざまな出会いを経て、新しい道を歩こうと決めています。それは自分を育ててくれたこのまちを良くしたいという思いがあるからです。

何年前か、ある人を駅に迎えに行きました。彼は東京の出版社の編集者で、大阪の仕事のあと、私が当時執筆していた雑誌の打ち合わせのため田辺にやってきたのです。彼は、実はあの“釣りバカ日誌”ハマちゃんのモデルになった釣好きの人でした。車でホテルに送るついでに田辺のまちを案内しました。駅前、大浜、橋を渡って漁師町、山の方へぐるとまわり、商店街、住宅地など、そしてホテルへ。

「松上さん、ここは明るくていいまちだね」
そう言われてドキッとしました。私にとっては当たり前、見なれた風景がよその人にはそんなふう映ったんだ。

「ああ、ここはいいまちなんだ」
新鮮さやうれしさ、誇りを感じる、とても胸に残る言葉でした。

このいいまちで私は生まれ育ち、結婚して子育てをしてきました。このまちが好きで暮らしに大きな不満はありませんが、全国の多くのまちがそうであるように田辺も課題を抱えています。

いま大坊に住んでいますが、とびきり美味しいみかんができるこの地でも、後継者不足、耕作放棄地などが目立ってきました。

また同級生たちとの話の中では「都会に出た息子には帰ってほしいとは思わんなあ」とか「〇〇も店を閉めたいらしいで」とか「田辺に未来はないから、娘の大学進学をきっかけに自分も出ていくわ」というような寂しい話を聞くことが多くなっています。

自然豊かで明るく、気候も温暖。食べ物は美味しく、人も温かい。文化レベルだって低くない。なのに人は減り続け、元気がなくなっているというのも事実です。どうにかならぬかなあ、どうにかしたいなあ。誰かと会って話すと、そんなことが頻りに話題にのぼるようになりました。

熊野古道を活かした観光を。子育てをもっと応援する方法はないだろうか。買い物難民と言われる人たち、どうしよう。先生の多忙化をどうにかしたい。スポーツパークを利用して障害者スポーツを充実させたい。全国的に見て高い不登校率を改善できないか。図書館をもっと充実させたいなあ。お年寄りが交流するカフェがおもしろそう。一次産業を力強くする方法は。防災の中にアウトドアの知識をもっと生かせたら…などなど。いろいろなことを考えます。

今はまだ単なる妄想かも知れないけれど、ひとつずつ課題に向き合うことで実現に近づくと考えていますし、少しずつでも形にしていきたいと思っています。5年後も10年後も「いいまちだね」と言ってもらえるように、自らが主体となって動きたいと思います。

正直に言うと、私は今まで何か明白な目標を持って人生を歩んできたわけではありません。けれど、やりたいことや興味あることはその時々にあって、その気持ちに素直に従って生きてきました。そんな中で誰かと出会い、感動し、刺激を受け、考えて、行動し、するとまた誰かや何かと出会い…、そんな繰り返しで、さまざまな経験を積みました。流れにまかせて…という言い方は、意志が存在しないような印象があり適切でないかも知れませんが、でもやはり自然な流れで今の自分がいるような気がします。

流れの先に何が見えるかわかりませんが、女性として、車椅子ユーザーとして、大学の講師として、教育委員として、母親として…、過去に積んできた経験を、これからは活かし成長したいと思います。

《プロフィール》

和歌山県田辺市在住。

'88年 バイク事故により車椅子生活スタート。'92年 アメリカオレゴン州に留学。滞在中いろいろな障害者スポーツやレクリエーションを体験し、以後カヌーを楽しむ。'96年に結婚、二児の母である。'98年には全カヌーイスト憧れの大河、カナダ、ユーコン川を下り、新聞、テレビ、雑誌など各メディアに取り上げられる。その後、アウトドア雑誌、教育雑誌などの連載を経験。講演活動も積極的に行っている。

子どもが小学校在学中は地域で母親有志によるグループを作り、毎月土曜日に子どもたちとともに工作、運動、食べ物作り、生け花、読み聞かせetc. さまざまな活動を行い、保護者、地域、学校をつなぐ取り組みとなった。

岡山理科大学非常勤講師(福祉環境論)、田辺市教育委員などを経験したことから、講演テーマは福祉、いのち、人権、教育、子育て、生き方など多岐にわたる。

●著書

「車椅子から青空がみえる」(小学館)

「さよちゃんのママは車椅子」(小学館)

「チェアウォーカーという生き方」(小学館101新書)

●執筆

☆小学生ママの子育て応援マガジン『edu(エデュ)』(小学館)にて2011年4月号まで約5年間エッセイを連載。

☆世界文化社ムック本『OLYMPUS PEN Lite』『LUMIX G2』

☆小学館『総合教育技術』他